

2019年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	東京大学大学院医学研究科精神保健学教室	助成金額	300,000 円
氏名	安間尚徳		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）			
精神科訪問看護師による、統合失調症をもつ当事者をケアするご家族に対する家族心理教育：クラスター無作為化比較試験			
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）			
<p>【研究背景と目的】</p> <p>本研究の目的は精神科訪問看護師が簡易的な家族心理教育を、統合失調症をもつ当事者とそのご家族に提供することで、ご家族の介護負担感が軽減することをクラスター無作為化比較試験により明らかにすることである。このようなエビデンスを構築することは、統合失調症をもつ当事者だけでなく、そのご家族も地域で生き生きと暮らせる体制を作る一助となり、地域精神保健の向上と発展につながると考える。</p> <p>【研究概要】</p> <p>2019年度は、まず研究で用いるツール（訪問支援で使える統合失調症情報提供ガイド：家族心理教育編）を作成した。次に、研究参加機関と研究参加者のリクルートを行った。東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県にある47か所の精神科を専門とする訪問看護ステーションから研究協力を受け、1施設あたり5人の主介護者をランダムテーブルにより無作為にリクルートした。研究参加者の選択基準は、①統合失調症をもつ当事者をケアする主介護者、②主介護者は年齢が20歳以上の者、③主介護者は当事者と家族関係にある者（両親、兄弟、姉妹、配偶者、子）、④主介護者は利用者と同居していること、⑤当事者が精神科訪問看護サービスを利用しているである。最終的に34か所の訪問看護ステーションが参加し、83人のご家族と83人の当事者に研究参加いただいた。さらに、訪問看護ステーションを介入群と対照群に無作為に割り付けた。介入群は、精神科訪問看護師が簡易的な家族心理教育ツールを用いて、1回60分の家族心理教育を、週に1回、計4回施行した。介入群の精神科訪問看護師には、家族心理教育の基本とご家族への話の聴き方に関する講義を行った。主要アウトカムは主介護者の介護負担感であり、Zarit Burden Interview (ZBI-22)により測定した。結果は、介入群はZBI-22の得点が、ベースラインと比べ、介入直後、6か月後と改善したが、対照群と比較して有意差を認めなかった。本研究の結果は、査読付きの英文雑誌に投稿し、また国内学会での発表を検討している。</p> <p>助成金は介入群の訪問看護師の研修費と、その際に講演いただいたご家族への謝金として使用した。助成金の残金は、論文投稿する際の英文校正費、論文掲載費、また国内学会での発表費に使用する予定である。</p>			
助成金の使用金額及び使途			
<p>ご家族への謝金、クオカード：20,000 円</p> <p>介入群の訪問看護師の研修会費：132,840 円</p> <p>助成金の残金は、論文投稿する際の英文校正費、論文掲載費、また国内学会での発表費に使用する予定である。</p>			
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）			
<p>・安間尚徳、塩澤拓亮、松長麻美、佐藤さやか、藤井千代 統合失調症と心理社会支援 訪問看護による家族心理教育の提案 精神保健研究 65 : 5-10, 2019</p> <p>・Yasuma N, Sato S, Yamaguchi S, et al Effects of brief family psychoeducation for caregivers of people with schizophrenia in Japan provided by visiting nurses: protocol for a cluster randomised controlled trial BMJ Open 2020;10:e034425. doi:10.1136/bmjopen-2019-034425</p> <p>・家族支援ツールが以下からダウンロードできます。 https://www.ncnp.go.jp/nimh/chiiki/research/28.html</p>			